

2026年3月16日

校長 岡 利道

部活動 点描 ～パソコン部～

学校だよりの本年度最終となる第15号。パソコン部さんにラストを飾っていただきましょう。

部員は7名で、コンピュータ教室を使い、火曜日・水曜日に活動しています。顧問は城根教諭です。

これまでに、タッチタイピングの練習をはじめとして、Excel やワードの検定に向けた練習、プログラミング・Unity を使ったゲーム作り、ペンタブやiPad を使ったイラスト制作、音楽の編集やPV制作、3Dモデリングソフトを使ったミニチュアの部屋制作、MMD を使ったアニメーション制作と、多岐にわたっています。



部員の一人2年C組の田中さんに、今年度の活動で心に残ることをインタビューしてみました。

まず出たのは、昨年9月の文教祭でのこと。パソコン部さんの展示コーナーには、「歌ってみた」というものがありました。編集ソフトを駆使したもので、ある音源を選び、それに来場者の声を重ねて作品化する体験ができたのです。クオリティも高く、随分好評だったようです。

次は、最近挑戦していることだそうです。MMD (MikuMikuDance) と言って、3DCG動画作成ツールを使った制作物です。次々と、とっても面白いものができるそうです。また文教祭その他で公開されると思いますので、皆さん、お楽しみに！

【活動年間スケジュール】

4月	:	制作物や目標について話し合い
5月	:	製作開始(7月まで)
8月	:	展示準備開始
9月	:	文教祭展示発表
10月	:	次の作品制作について話し合い
11月	:	製作開始(3月まで)

★制作の様子は次ページへ！



卒業式での式辞

ホットな話題を出させていただきます。去る3月1日の日曜日に第68回卒業証書授与式が挙行されました。私からの式辞は次のとおりでした。理由あつてご臨席いただけませんでした卒業生の保護者の皆様、そして1年・2年の保護者の皆様にもお届けいたします。

月日は過ぎゆき、令和8年も弥生3月となり、いよいよ卒業生の旅立ちを見送る今日この日を迎えましたことを、皆さんと共に祝いたく存じます。

この佳き日にあたり、大勢の来賓の皆様をお迎えし、厳粛な卒業証書授与式を挙行できますことは、私共のこの上ない喜びでございます。

また、御列席いただきました保護者の皆様。本日はお子様の御卒業、誠にめでとうございます。成長した我が子の姿に、感慨も一入のことと存じます。心からお祝い申し上げますとともに、3年間にわたる本校教育活動への御理解・御協力に深く感謝いたします。

さて、卒業生の皆さん、本日は本当におめでとうございます。今、この瞬間にも、文教坂から見渡した春・夏・秋・冬の風景、仲間の顔、教職員の声、校舎の空気やにおいなどが、次々にあなたの五感に押し寄せてきていることでしょう。

日々の授業で見た皆さんの真剣な学びの姿。昨年6月の体育祭で競技や運営に発揮した強いリーダーシップ。9月の文教祭ではじけた笑顔と響き渡った歓声。文教高校ここにありと持てる力をいかに発揮した体育系クラブの活動。地域に活力を与え喜んでいただいた文化系クラブの活動。それ等の根底にあったのは、皆さんのチームワークと優しさです。それぞれが青春の時を全力で駆け抜けましたね。私は、この目で見ていましたよ。皆さんと共に過ごさせてもらったことを心から感謝します。ありがとうございました。

ところで、私たちが暮らしている社会に目を向けてみますと、近くでは、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックにおいて日本の若手選手が大いに活躍したこと、選挙権年齢が18歳以上となった公職選挙法改正を受け、先月の衆議院議員選挙をはじめとして、若い人たちが国や地方自治体の政治

へより主体的に関わり始めたことなど、喜ばしいことがたくさん見られません。

しかしながら、ふと立ち止まった時、何か言いようのない不安感も押し寄せてきます。世界規模の問題となっている、経済格差の拡大や深刻化、後を絶つことのない戦争や紛争、予想を超える大規模な気候変動や生態系の破壊など。そうしたニュースが目や耳から次々と入ってくるせいでしょう。

卒業生の皆さんは若いので、自分は関係ないと思っておられるでしょうか？ そうではないはずです。不安感を覚えつつも、何とかせねばならないとの思いも、ふつふつと沸き上がってきているのではないのでしょうか。一人ひとりにとりましても、それらの問題は決して見過ごすことはできないでしょうし、問題の打開のために今の自分にできることは何なのかを、問い続けておられると考えます。皆さんの追究力は無限です。

また、これから先を見据えますと、予想もつかない、新たな問題が、皆さんを翻弄するかもしれません。そこでもまた最適な打開策を見出していかれるでしょう。自らの創造力を信じてください。

卒業生の皆さんが本校で身につけてきた確固とした力。それをもってすれば、いかなる困難にも立ち向かうことができるでしょう。

ご承知のように、本校では「育心育人」「心を育て、人を育てる」という教育理念を掲げてきました。この言葉には、知識や技術だけではなく、人としての在り方を育むことこそ教育の根幹であるという思いが込められています。間違いなく、本校の教職員は、この思いで皆さんに接してきました。

皆さんが過ごした3年間は、どのようなものだったのでしょうか。決して平坦な道ではなかったはずです。思うようにいかない日もあったでしょう。悩み、迷い、立ち止まることもあったかもしれません。しかし、その一つひとつの経験が、皆さんの心を鍛え、人としての深みをもたらしました。本校の教職員は、その支援に努めてまいりました。未来に向かう確かな心の持ちよう、人としての生き方の礎を自ら身につけてきたのは、皆さん自身です。

私に与えられた時間が、もう残り少なくなってきました。卒業する皆さんに、臚（はなむけ）の言葉を贈らせていただきます。それは、フランスを代表する詩人の一人、ルイ・アラゴンの言葉です。それは、学園創設者であり本校初代校長でもある武田ミキ先生が愛された「誠」の文字が表すことと重なる部分が多いと考えるからです。ミキ先生の精神とアラゴンの精神とが、時空を超え、気脈が通じる、共鳴し合うとを感じるからです。

アラゴンが「ストラスブール大学の歌」という詩に盛り込んだ次の一節を贈ります。「教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸に刻むこと。」

この言葉は、まさに皆さんと私たち教員の歩みを表しているようにも感じ

ます。先生方は、皆さんの未来に希望を見だし、励まし続けてきました。そして皆さんは、日々の学びを通して、誠実さ、責任感、そして他者を思いやる心を、自分の中に刻んできました。「心を育て、人を育てる」という生き方そのものを、皆さんは体得してきたのです。

アラゴンは、この詩を表した時、第二次世界大戦の戦時下という絶望的な状況であっても、教えることは未来を信じる行為だと捉えました。ミキ先生が敗戦の中で立ち上がった時の状況と似ています。教員は「今」を超えて「未来」を語る存在です。生徒に「あなたには可能性がある」と伝える存在です。たとえ社会が暗くても、教育は光を手放さない営みであり、本質的に「希望の制度」であり、教員はその担い手であるとアラゴンは捉えました。

また、学ぶことは、単に知識を得ることではなく、自分の内側に倫理を刻む行為だとアラゴンは言います。その行為は、正直であること、真摯であること、自分の行為に責任を持つこと、他者に対して誠実であることだと言うのです。学びとは、人格の形成そのものです。

「教えるとは、希望を語ること。学ぶとは、誠実を心に刻むこと。」

皆さん、卒業とは、学びが終わることではありません。むしろ、これから始まる長い人生の中で、自分自身を育て続ける旅の出発点です。どうか、これから先の人生でも、人に対して誠実であること、自分の心の声に耳を傾けること、正直であること、そして未来に希望を持ち続けることを忘れないでください。

困難に出会ったときこそ、皆さんの「心」が試されます。そのとき、ここで過ごした日々を思い出してください。仲間と支え合った時間、先生方の言葉、努力を積み重ねた経験。それらは、皆さんを必ず支えてくれるはずで

す。最後に、皆さんのこれからの人生が、自分らしく、誠実で、そして希望に満ちたものであることを、心から願います。本日は、本当におめでとうございます。

令和八年三月一日

広島文教大学附属高等学校 校長 岡 利道

ご愛読への御礼

この1年間、お読みいただき、誠にありがとうございました。私も校長1年目ということで、無我夢中で発信してきました。

一区切りがつかまりましたので、次年度からは発信方法をがらりと変え、スタイルを新たにしていこうと考えています。今後も変わりませず、よろしく願いいたします。